

梟 報 二〇一四年七月～十二月

大 谷 学 会

◇研究発表会

十月二十七日(月)午後一時～

於 響流館メディアホール
 仏教とスピリチュアリティに関する一
 考察 本学講師 新田智通
 地域祭礼と祭礼文化圏 本学准教授 野中 亮

現代沖縄と親鸞思想

—彫刻家・金城実をめぐって—

本学准教授 福島栄寿
 人間存在の基礎構造としての教育 本学教授 川村覚昭

新田氏・福島氏の発表要旨を今号に掲載している。野中氏・川村氏の発表内容は論文として次号以降に掲載予定である。

真宗総合研究所

◇委員会

七月二十二日(火)午後〇時二十分～

於 博綜館第四会議室
 ・「指定研究」西藏文献研究の研究員人事について
 ・「指定研究」西藏文献研究の研究補助員に関する研究組織変更について

九月二十四日(水)午後〇時二十分～

於 博綜館第四会議室
 ・研究組織の変更について

◇二〇一四年度第一回研究者総会

七月二十五日(金)午後六時～

於 一号館学生談話室一
 Big Valley Cafe

真 宗 学 会

◇第一回真宗学会例会

七月九日(水)午後四時二十分～

於 二号館二二〇三教室
 卒業論文梗概発表会

本学大学院修士課程第一学年 四名

◇第二回真宗学会例会

十月八日(水)午後二時四十分～

於 尋源講堂

親鸞と第十九願

本学大学院博士後期課程第二学年

稲岡智子

◇真宗学科第二学年

比叡山登山・フィールドワーク

十月十九日(日)

午後九時集合、午後二時比叡山延暦寺

根本中堂前で解散。

真宗学演習Ⅱの授業の一環として第二

学年の学生と担当の教員が参加。

◇第三回真宗学会例会

十月二十二日(水)午後二時四十分～

於 尋源講堂

親鸞の言葉における「知」

本学大学院博士後期課程第一学年

東 真行

曾我量深における三一問答

本学大学院博士後期課程第一学年

石原 樹

◇第四回真宗学会例会

十月二十九日(水) 午後二時四十分

於 尋源講堂

曾我量深における救済の実験

―至深の自力執心とその超越―

本学大学院博士後期課程第二学年

村上良顕

阿難の問いから釈尊によって説き出さ

れる『大無量寿経』の仏道

―「教巻」によって

本学大学院博士後期課程第一学年

波佐谷信道

◇修士論文中間発表会

十一月五日(水) 午後二時四十分

於 二号館三三〇一教室

本願力回向の信心

方便の意義

―三願転入の文を中心として―

讀 西誓

親鸞における信仰主体の確立

―「三心一心問答」を通して―

中村大信

宿業と大悲

後藤 海

◇真宗学会大会

十一月六日(木) 午後三時

於 尋源講堂

清沢満之と教化の課題

本学准教授 藤原正寿

「我が心慰めかねつ」について

鎌倉女子大学教授・

東京大学名誉教授 竹内整一

◇真宗学演習Ⅰ特別講演会及び座談会

十一月十九日(水) 午後一時

於 響流館メディアホール

学ぶこと・わかること

大谷中学・高等学校前校長

真宗大谷派善照寺住職 真城義磨

◇第五回真宗学会例会

十一月二十六日(水) 午後二時四十分

於 尋源講堂

法蔵菩薩降誕の意義

本学大学院博士後期課程第二学年

上島秀堂

◇卒業論文中間発表会

十二月五日(金) 午後六時

於 二号館三三〇一教室

空過を超える道

榎山 蓮

「出遇い」そして「生きる力」

親鸞の回心より曇鸞と法然の背中に学ぶ
野口 翼親鸞における往生浄土とは
石島正淳

「本願はこり」とは何か

―歎異抄第十三章を中心に―

三原樹子

本願力回向の信心

―人間における信心の成就―

村上無量

◇第六回真宗学会例会

十二月十七日(水) 午後二時四十分

於 尋源講堂

現生正定聚の源流と系譜

本学准教授 井上尚実

仏 教 学 会

◇研究発表例会

七月十七日(木) 午後四時二十分

於 響流館マルチメディア演習室

『華嚴経』はどういう經典か―その構造と基本思想―
本学教授 織田顕祐

佛教徒にとって satya はいくつあるか

—『釈軌論』と『順正理論』の観点から—
本学助教 上野牧生

十二月二十六日(水) 午後四時二十分

於 二号館二三〇二教室

「入法界品」における九夜天善知識の問題
本学教授 一色順心

ガンダーラの観音菩薩像再考のための一試論
—標幟としての化仏を中心に—

本学任期制助教 上原永子

◇史跡踏査

十一月二十八日(金)

訪問先…三井寺、西教寺、延暦寺

◇公開講演会

十二月四日(木) 午後四時二十分

於 尋源講堂

『俱舍論註ウパライカー』の研究

佛教大学仏教学部教授 本庄良文

西洋哲学会・倫理学会

◇秋季公開講演会

十二月十八日(木) 午後四時二十分

ケアを哲学する

於 尋源講堂

大阪大学コミュニケーションデザ
イン・センター特任教授

西川 勝

宗 教 学 会

◇第三十三回「大拙忌」記念公開公演会

七月三日(木) 午後四時二十分

於 尋源講堂

ウィリアム・ジェイムズ再考

舞鶴工業高等学校准教授

吉永進一

国史学会・日本仏教史学会

◇大谷大学日本史の会大会・総会

七月二十六日(土) 午後一時三十分

於 響流館メディアホール

・研究発表(午後一時四十分)

市民と共に歩む資料館—大東市立歴史

民俗資料館の現状と課題—

大畑博嗣

文化財を活かした地域作り—高島市の
文化財行政の現状から— 山本晃子

大阪における人権教育の現状と課題

武田朋宏

京都府下教育体制の形成と真宗大谷派

田中智子

・総会(午後四時五十分)

於 響流館メディアホール

・懇親会(午後五時二十分)

於 一号館学生談話室—

Big Valley Cafe

◇大谷大学日本史の会九月例会

九月二十七日(土) 午後二時

於 響流館演習室三

近世後期における護法・排耶論の変遷

—真宗僧侶にみえる内省的意識を通
して—

松金直美

◇大谷大学日本史の会十一月例会

十一月二十二日(土) 午後三時

於 響流館博物館展示室

大谷大学博物館二〇一四年度特別展

「戦国武将と神仏」見学会

文藝学会

◇公開講演会

七月十五日 (火) 午後一時～

於 響流館メディアホール

『酒吞童子』から見る室町物語の諸本

本学任期制助教 安藤秀幸

除夜と誕生日―中国宋代のはなし―

佛教大学教授 中原健二

◇『文藝論叢』第八十三号発行

(十月A5判一一〇ページ)

『清浄法行経』の研究―『佛説尸迦羅越

六方礼経』と『佛説清浄法行経』―

野村卓美

『曼珠沙華』小考

沙加戸弘

二つの近未来小説―菊池幽芳『己が罪』

と趙重桓『双玉涙』比較―

和歌童蒙抄輪読十二

全 美星

《資料紹介》

ある「満洲国」軍官の日記『轍印深深』

李 青

現代北京語に関する調査研究

―中国ドラマ「裸婚時代」第二集

Chapter02-05～02-07― 渡部 洋

早川智美

清水由香里

陳蓋謨『元音統韻』をめぐる

―『皇極統韻』との比較を中心に―

浦山あゆみ

国文学会

◇先師法要および講演会

九月二十七日(土) 午後一時三十分～

於 尋源講堂

先師法要厳修

導師 沙加戸弘

元禄元年の了意

―平仮名本による女人教化の試み―

本学准教授 中川眞二

中国文学会

◇日本中国学会 第六十六回大会

十月十一日(土)～十二日(日)

於 大谷大学

特別講演

大陸、日本語として リービ 英雄

司会 藤井省三(東京大学)

シンポジウム

中国とは何か―言葉と権力

金 文京(京都大学)

小島 毅(東京大学)

濱田麻矢(神戸大学)

司会 浅見洋二(大阪大学)

◇卒業論文中間発表会

十月二十四日(金)～二十五日(土)

於 湖西キャンパスセミナーハウス

魚玄機の人物像について 保々大地

『搜神後記』の動物について 岡部彩加

◇学術公開講演会

十二月九日(火) 午後二時四十分～

於 響流館マルチメディア演習室

異色の史記学者水沢利忠

京都教育大学教授 谷口 匡

西洋文学研究会

◇年次大会

七月十九日(土) 午後二時～

於 博綜館H二〇四教室

① 総会

② 研究発表(午後二時四十五分～)

ディケンズ、フッドと「空腹の四〇年

代」『ケイト・ニクルビー』と初期

の社会派リアリズム 木島菜菜子

英訳モーパッサン「偽作」の正体

足立和彦

シュトルムの物語詩「兄いもうとの血」

について―神秘(ミステリウム)を

導きの糸として― 加藤丈雄

英 文 学 会

◇年次大会

十二月十一日(木)午後四時二十分～

於 一号館一一〇教室

卒業論文中間発表

司会 久保圭司

① ジェイン・オースティン『高慢と偏

見』について 鈴木瀬奈

② エミリー・ブロンテ『嵐が丘』につ

いて 竹田由希菜

修士論文発表

トルーマン・カポーティ『冷血』につ
いて 高野 碧

国 語 教 育 学 会

◇第二回研究大会

十一月一日(土)午後一時三十分～

於 五号館五一〇一教室

学び合いを生かした授業づくり

岡山大学教職大学院第一学年

高橋由衣

国語科教育における指導法

―『認識の方法』に着目して―

本学大学院修士課程第一学年

高橋来由

新任教員としての一年半を振り返って

―国語の授業を中心に―

京都市立金閣寺小学校教諭

川井柚香

短 期 仏 教 科

◇第二学年卒業研究中間発表一夜研修会

九月十六日(火)～十七日(水)

於 湖西キャンパスセミナーハウス

第二学年の一夜研修会を開催。十二月

一日の卒業研究の提出に向けて、中間

発表会と、教員を交えての懇談会を行

った。

◇第二学年卒業研究中間報告会

十月三十日(木)

於 大谷大学

第二学年の卒業研究中間報告会を開催。

十二月一日の卒業研究の提出に向けて、

中間報告を行った。

学生会員 投稿規程

1. 本学会学生会員で、『大谷学報』に論文の掲載を希望するものは、指導教員の推薦状を添えて投稿できる（一六〇〇字以内とする）。
2. 投稿された論文は、審査を経て採否が決定される。
3. 論文の審査は、編集委員および編集委員が選任委嘱する審査委員（若干名）によって行われる。
4. 審査の結果は左記の通りとし、②③の場合には、投稿者にその理由を通知する。
 - ①採用
 - ②条件付き採用（修正がなされた場合採用）
 - ③不採用
5. この規程は、『大谷学報』第八十九卷第一号より適用される。